

よなかふしぎわ
世の中には不思議で分かりづら
いことがたくさんあります。自然、
かがくれきしとくわせんせい
科学、歴史など、詳しい先生に解き
あ
明かしてもらいましょう。

しこうきしん
知りたい好奇心



©原ゆたか/ポプラ社

どうぶつ のうち あ しんこく 動物の農地荒らし深刻 じったい りかい きょうぞん さくさぐ 実態理解し共存策探る



シカの被害にあった桃の木

今、日本中の農地で、シカやイノシシなど動物による被害が報告され、その農作物自体の被害総額は年間172億円ほどと言われています（農林水産省・2016年集計）。写真は、山梨県内の果樹園でシカの被害にあった桃の木です。シカが実や芽、枝葉を食べるときに強く引いたのでしよう。桃の幹が裂かれてしまいました。シカはいっぱい食べて満足して帰ったのでしようが、こうなるこの桃の木は植え替えるほか仕方ありません。

難しい対策

自然の山や森にはたくさん動物が暮らしています。昔から人間はよりたくさん食べ物や資源を得るため、

山裾から山の中にも入り込んで畑を耕し、狩りをし、森林を利用してきました。この頃、動物にとって里山は人がたくさんいたために入り込めない場所でしたが、今のように入人が少なくなりお年寄りの割合が増えて畑や森林の手入れがされなくなると、人里近くにも入り込めるようになり、動物は畑の作物も食べられるので、だんだんその数を増やしています。この増えた動物は、さらに森林で植林した木の皮を食べ、枯らしてしまうことや、もつと奥山の貴重な高山植物を食べしてしまうこともあります。

これらの被害は深刻ですから、防護柵の設置や動物を捕るなど対策をとっています

が、なかなか簡単ではありません。これから日本中で、特に山に近い集落で、人が減り続け大きく地域が変わってゆきます。そこで人と動物とが互いに困らないように暮らすための方法を探るために、動物のこともっとよく理解することが大切です。

河原も通路

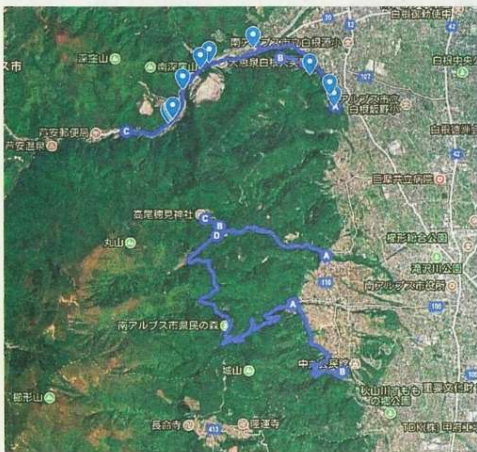
例えば、先の被害の桃畑では、すぐ横の河原の中にシカがいました。河原にはヨシが茂り、所々に樹木が生えて小さな林ができていますので、シカは人目が避けられる河原を便利な通路に使っているのです。また、図は山梨県内の研究チームが夜の間にシカの数を数えるために調査した結果の一例です。御勅使川に沿って走る道路から調査をすると、確かに川沿いにもたくさんシカがいることが分かりました。

このような目撃情報は、大勢から集まるほど動物の実態が分かるようになります。多くの人が関心を持って考えてほしい大きなテーマです。

（山梨大生命環境学部環境科学科助教・国際流域環境研究センター兼任 馬籠純）



河原の中のシカ



市民参加型の野生生物棲息調査の結果の例（青い線は調査ルート。マークのポイントはシカが目撃された場所、2017年6月：南アルプス市域）